

やけど

落ち着いて！
まずはやけどの
状態を確認して！



? なぜ、やけどになるの？

やけどは熱による皮膚の外傷です。子どもは皮膚が薄いので、大人に比べてやけどの状態が深くなりやすく、低温やけどでも皮膚の深部まで進行してしまふことがあります。やけどは皮膚の状態と範囲でⅠ度～Ⅲ度までに分類されるので、まずはやけどの状態を確認してください。また紫外線による日焼けもやけどの一種です。日焼けで水疱ができることもあるので注意して！

観察のポイント

- ・ どこにやけどした？
- ・ やけどの範囲はどれくらい？
- ・ やけどの原因は？
- ・ 意識はある？ぐったりしていない？

身の回りに
危険がいっぱい！



低温やけどは、カイロや湯たんぽ、ホットカーペットなどに長時間触れていることで起こります。皮膚の深い部分まで損傷している可能性もあるので、皮膚の赤みが引かなかったり、水ぶくれがあったら病院を受診してください。

今の状態を確認して 受診の目安を把握しましょう

やけどには、皮膚の状態が赤くなっているⅠ度から、水疱（水ぶくれ）ができている状態のⅡ度、皮膚が白くなったり、黒こげの状態のⅢ度まで分類されます。やけどの状態をしっかりとみて受診しましょう。

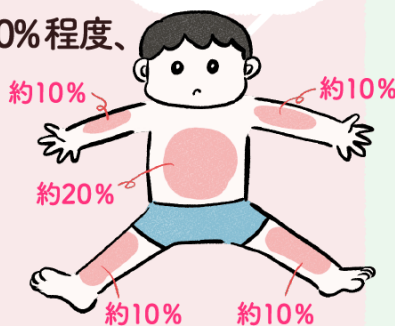
救急車で病院へ！

- ☐ やけどの範囲が全身の約10%以上

（範囲の目安：片腕もしくは片足で10%程度、背中もしくはお腹で20%程度）

- ☐ やけどをした皮膚が黒色、もしくは白くなっている
- ☐ 顔面にやけどしている

やけどの
範囲の目安



細菌に**感染**しやすいので
水疱は**つぶさないで！**

すぐに受診！

- ☐ 手や足の指にやけどした
- ☐ 陰部にやけどした
- ☐ 水疱（水ぶくれ）がある



診療時間内に受診

- ☐ やけどの範囲が1円玉以下
- ☐ 皮膚がうっすら赤くなっている

！ 治療法

治療法もやけどの状態（Ⅰ度、Ⅱ度、Ⅲ度）によって異なります。

Ⅰ度熱傷

皮膚に赤みがある程度であれば、炎症を抑える軟膏を塗ります。やけどの跡も残りません。

軟膏を塗って
様子をみましょう



Ⅱ度熱傷

水ぶくれができるほどの状態です。比較的、症状が浅いようであれば、Ⅰ度熱傷と同じく軟膏や創傷被膜材による治療が行われ、1～2週間ほどで治ります。症状が深い場合は手術する可能性もあり、完治に1か月以上かかったり、ひきつれなどの傷跡が残ることも。水ぶくれはつぶすと傷跡が残る場合があるので注意してください。

水ぶくれを
つぶすと
傷跡が！



Ⅲ度熱傷

皮膚が白くなったり、黒こげの状態の場合、基本的に皮膚を移植するなどの外科的治療が必要となります。

🏠 ホームケアのポイント

1 冷やす

やけどをしたらすぐに冷やすことが大切です。最低でも流水で5~10分は患部を冷やしてください。目や耳などは氷や保冷剤などを包んだタオルを当てるといいでしょう。服の上から熱湯などを被ってやけどをした場合は、服の上から流水で冷やしてください。ただし、乳児など小さな子どもは体が冷えると低体温症になりやすく、意識障害を起こす危険があるので注意しましょう。

患部を**流水**で冷やして！



2 水疱（水ぶくれ）はつぶさない

水疱ができていたら触ったり、破ったりしないように気を付けて。病院を受診するときはガーゼなどで保護してあげましょう。

ふんわり
ガーゼで
覆って

※水ぶくれを
潰さないように！



3 入浴は控える

やけどをした当日の入浴は控えましょう。また流水で冷やした後は摩擦を避け、日光にも当たらないようにしてください。



やけどを防ぐための環境づくりを

子どもは成長とともに行動範囲を広げ、予期せぬ行動をとります。家庭内の事故を防ぐためにも、子どもの手の届く範囲を見直し、危険な物は置く場所を変えるなど生活環境を整えましょう。

① テーブルクロスは外す

子どもがテーブルクロスを引っ張ると、その上にのっている熱い飲み物やポットなどが倒れる可能性があります。小さな子どもがいる場合、テーブルクロスなどは外しておきましょう。

子どもの
手の届く範囲を
確認して



② コード類も見直す

子どもがコードを抜いたり、つまづいた拍子に抜けてしまって、電気ケトルやアイロン、加湿器などが倒れることがあります。コードが簡単に外れたり、倒れても中身がこぼれない製品を選ぶとともに、コードが子どもの手の届かない高さ（1mくらいの位置）になるように置き場所に工夫を。

電気製品は
置く場所にも
注意して



3 キッチンに入れない

キッチンには危険がいっぱいです。日ごろからフライパンなどの取っ手は奥に向けたり、炊飯器など湯気の出る家電製品は床から高い位置に置くなど注意し、子どもはキッチンに入れないようにしましょう。

キッチンは入らないようにゲートを!



4 食事中は距離をとる

子どもを抱っこしたまま、熱い物を飲んだり、食べたりしてはいけません。食事中も一定の距離を保つなど注意しましょう。

5 たばこ

子どもがいる部屋でたばこを吸わないこと。吸い殻も子どもの手が届かないところに捨ててください。

6 日焼け対策

日焼け後の赤みのある皮膚もまずは冷やして。その後にローションなどで傷んだ肌を保湿してあげましょう。日焼け止めなどはSPF値やPA値が高いものよりも、十分な量を2~3時間ごとにこまめに塗るほうが効果的です。また生後6カ月未満の子どもは、経皮吸収やかぶれのおそれがあるので、日焼け止めクリームなどの使用は避けましょう。

十分な量をこまめに塗って

